

岡山市がめざす教育

『樹人』 明日の世界に雄飛する人を樹うる



郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子の言葉「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

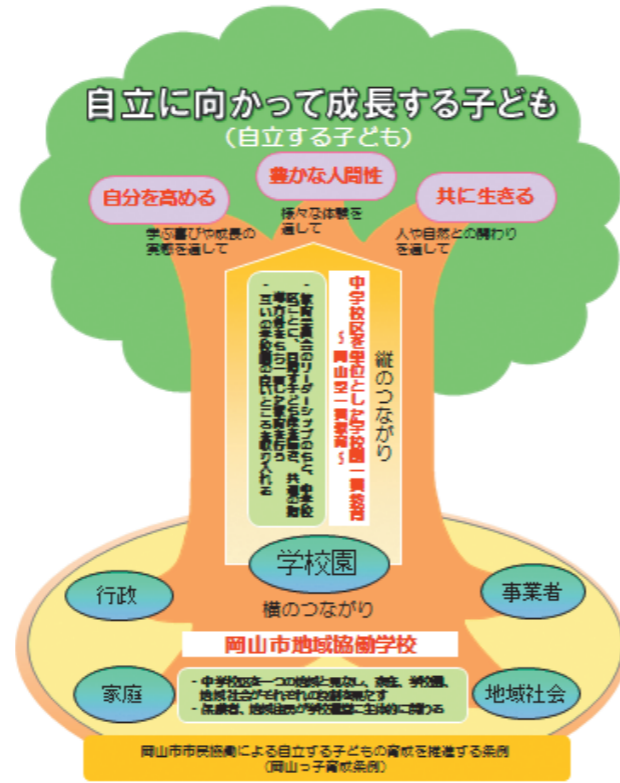
まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。

百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。

「岡山市教育大綱」より



岡山市が目指す教育のイメージ



左の図は、岡山市が目指す教育のイメージを表したものです。

岡山市では、「岡山っ子育て条例」に基づき、家庭、学校園、地域社会、事業者が協働して、「自立に向かって成長する子ども」の育成に当たっています。

「自立に向かって成長する子ども」の育成を行うための仕組みとして、「中学校区を単位とした学校園一貫教育(岡山型一貫教育)」(以下「岡山型一貫教育」と「岡山市地域協働学校」を中心につながりを大切に取組を推進しています。

「岡山型一貫教育」では、中学校区ごとに、目指す子ども像を共有し指導方針を就学前から中学校まで一貫させる学校園同士の縦のつながりをつくります。

また、「岡山市地域協働学校」では、中学校区を一つの地域と見なし、保護者や地域住民などが一定の権限をもって学校運営に参画することで、市民が協働する横のつながりをつくります。

これらを2つの柱として、縦のつながりと横のつながりが織りなす教育により、子どもたちが自立に向かう力を育てていきます。

岡山市が求める教員像

「自立に向かって成長する子ども」の育成を推進する教員



- 岡山市の教育に夢と希望をもち、使命感に燃えている人
- 子どもへの愛情をもち、自らも成長していくことができる人
- 子どもの知・徳・体のバランスのとれた力を向上できる専門的な知識・技能のある人
- 中学校区を単位とした学校園一貫教育(岡山型一貫教育)と岡山市地域協働学校の趣旨を理解し、実践することができる人
- 社会の変化や新しい教育課題に柔軟に対応できる人
- 豊かなコミュニケーション能力、社会人としての良識をもち、他者と協調できる人

Q1 先生になろうと思ったのはなぜですか？

- 第1位 子どもが好きだから(子どもの成長に関わることができるから)
- 第2位 教師になりたかったから
- 第3位 目標とするような素敵な先生に出会ったから

Q2 岡山市の採用試験を受験しようと思ったのはなぜですか？

- 第1位 慣れ親しんだ地元だから
- 第2位 岡山市の環境がよい(生活しやすい)から
- 第3位 岡山県内の大学を卒業したから

平成30年度に新採用になった初任者に1年を振り返りに質問してみました。



Q3 実際に先生になって感じる、先生という仕事の魅力は何ですか？

- 第1位 子どもたちの成長を間近で見て関わり、見守ることができる
- 第2位 子どもとの関わり合い
- 第3位 仕事にやりがいを感じる

Q4 勤務している学校の魅力や自慢できることは何ですか？

- 第1位 教職員の間がよい(協力体制、団結力、相談しやすい)
- 第2位 先輩の先生が優しくて頼もしい(親切、話しやすい、尊敬できる)
- 第3位 子どもたちがよい(素直、かわいい、笑顔が素敵、明るい)

教員の待遇

給与(初任給) ※その他手当を含む一例

| | | 平成31年4月1日現在 | 給料月額 | 教職調整額 | 地域手当 | ※合計 |
|---------|-----|-------------|-------|-------|---------|-----|
| 小中学校の教諭 | 大学卒 | 215,200 | 8,608 | 6,714 | 233,122 | |
| | 短大卒 | 188,100 | 7,524 | 5,868 | 203,792 | |

手当について

諸手当: 教員特別手当、扶養手当、住居手当、通勤手当、期末・勤勉手当等

休暇等について

| | | |
|------|------------------------------|--|
| 勤務時間 | 1週間において38時間45分 | |
| 休日等 | 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日) | |
| 休暇制度 | 年次休暇 | 年20日付与(最大20日の繰り越し可) 時間単位の取得可 ※新採用の年は15日付与 |
| | 特別休暇 | 夏季休暇、産前・産後休暇・家族の看護休暇など |
| | その他の休暇 | 病気休暇、介護休暇、介護時間など |
| 休業制度 | 育児休業、大学院修学休業、自己啓発休業など | |

パンフレット「Teacher」から

初任者×初任者

浦安小学校 教諭
川上 奈々子

横井小学校 教諭
遠藤 隆平



ー 夢の教員生活はもうですか？

- 川上: 一学期はあっという間でした。気づけば修了式(笑)
 遠藤: 本当に一日がすぐ終わるんですよ。何が分からないかも分からないので、毎日先輩方に相談していました。
 川上: 私も同じです。周りの先生方に教えてもらいながらなんとか授業をして、休み時間になれば先生であることを忘れるくらい、子どもたちと全力で遊んで。毎日へとへとなんですけど、すごく充実しています。ノ

「夢のその先」

遠藤: 教員になってからですが、旅行に行った時でも「子供に教えてあげられることはないかな」という目線で常に何かを探している自分に気づきました。完全に子ども中心の生活ですよ(笑)でも、それが楽しいんです。

川上: 想像と全然違ってました。すごくフレンドリーで、何でも相談しやすいです。ちょっとした雑談もよくしますし、にぎやかで楽しいですよ。

遠藤: うちの先輩方も手取り足取り教えてくれます。必ず近くにだれか相談できる人がいるので、恵まれてるなと思います。先輩方に少しでも近づけるように頑張りたいです。

川上: やりがいを感じますか？

遠藤: 運動会でエイサーを踊ったんです。子どもたちが「やりたい、やりたい！」って言って、休み時間もずっと練習して。運動会の準備はとて大変だったんですけど、やり遂げた時の子どもたちの笑顔といたら、もう、最高です。

川上: 私は授業づくりを頑張っているんですけど、子どもたちは正直なので、いい授業ができるととってもいい顔をしてくれるんです。だから授業が終わった時に子どもが笑顔だとすごく嬉しいです、また頑張ろうって思えます。



パンフレット「Teacher」には初任者の率直な意見が載せてあります。ぜひお読みください。教職員課HPでもご覧いただけます。